

魯迅の回想の小説『藤野先生』を紐解くよ	あつて、この本は納得の一冊と思いました。	至上の社会の中で、文学・芸術軽視の政策も	その矜持も語っています。最近の科学や経済	自らの作家活動も、確かに『用』はあると	る『用』なのだ。作家太宰治は主張しました	心を育て動かして、世の中を変える力ともな	感動や発見があり、情操や知識を豊かにし、	学や芸術、哲学など。しかし、その享受は、	生活に『無用』とも言われがち。な文芸・文	後の魯迅の活動の原動力となつたと言います	教、哲学の書が彼の小説家への夢を育てて、	勉強の傍らで、熱心に読んだ世界の文学、宗	きく起因すると「惜別」は書きまします。医学の	てたのは、留学生として仙台にいた日々。大	新しい中国の誕生に貢献した偉大な魯迅に育	想と、革命家としての行動で、民衆のため	人を、後年、近代文学の父と呼ばれ、その思	で語られます。清国からの医学の留学生周樹	『無用の用』といいう言葉が、小説「惜別」
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------

の	学		人	て		う	つ	に	な	悪	質	父		人	留		反	時	う
そ	生	「	仙	、	当	日	け	受	詐	化	屋	の	中	の	学	周	骨	の	に
の	が	惜	台	そ	時	本	よ	け	欺	し	と	事	国	故	学	樹	の	国	小
老	魯	別	で	の	、	に	う	入	の	、	薬	業	浙	郷	し	人	文	策	説
医	迅	「	学	喧	日	、	と	れ	よ	三	屋	失	江	で	、	（	学	の	「
師	の	は	ぼ	騒	露	国	必	た	う	年	に	敗	省	の	魯	を	と	小	惜
の	親	、	う	の	戦	費	死	自	な	後	通	で	江	辛	迅	学	な	説	別
回	友	片	と	東	争	留	に	分	医	父	い	家	南	苦	）	び	っ	で	「
想	と	田	杜	京	の	学	学	に	療	は	看	は	市	の	が	に	て	す	は
で	な	舎	の	を	勝	を	び	憤	に	他	病	没	の	少	、	仙	い	が	書
、	る	か	都	嫌	利	し	、	慨	、	界	を	落	裕	年	明	と	、	、	か
周	設	ら	に	い	に	た	で	し	そ	。	続	。父	福	時	治	私	そ	の	れ
樹	定	出	来	逃	日	の	に	、	し	靈	け	な	代	に	三	は	の	、	、
人	で	て	た	れ	本	で	西	西	、	力	、	家	あ	に	十	考	意	、	、
が	書	来	の	、	中	す	洋	洋	そ	は	し	に	り	生	五	え	図	、	、
語	か	た	で	医	は	。	医	医	れ	漢	か	ま	ま	ま	年	ま	を	、	、
ら	れ	朴	し	学	沸		学	学	を	方	し	れ	し	れ	頃	す	超	、	、
れ	、	訥	た	を	い		を	を	無	の	病	、	た	、	日	。	え	、	、
ま	の	な	。	一	い		行	に	知	悪	気	毎	、	。	本		た	、	、
す	ち	医								辣	は	日	祖		に		、	、	、

清	イ	の		一	周	講	の	あ	で	を	し	も		あ	威		友	い	
国	容	幻	し	部	さ	義	で	り	添	見	た	、	清	り	の	当	人	て	日
の	疑	灯	か	が	ん	の	す	、	削	て	。講	講	国	、	中	時	に	い	本
群	者	の	し	騒	に	最	。そ	そ	し	、	義	義	留	危	で	、	し	ま	に
集	の	後	、	い	試	後	その	れ	、	そ	の	学	学	機	、	、	、	す	親
の	銃	で	仙	だ	験	ま	こ	に	書	の	後	に	生	的	新	彼	が	、	し
姿	殺	見	台	り	の	で	と	周	き	後	で	日	に	状	し	に	、	い	い
に	と	た	で	も	問	続	は	樹	加	彼	を	本	に	況	い	魯	一	友	友
周	、	ニ	二	す	題	き	骨	人	え	を	研	人	は	、	国	迅	惜	人	は
樹	そ	ユ	年	ほ	を	ま	学	は	、	研	究	は	親	不	を	の	別	は	い
人	れ	ー	目	ど	教	し	、	驚	文	室	に	親	切	穩	作	心	は	な	な
は	を	ス	の	で	え	た	血	き	法	呼	に	切	で	の	る	を	、	か	っ
衝	の	の	終	し	て	。そ	管	困	の	び	呼	で	し	中	三	語	医	た	た
撃	ん	、	わ	た	い	れ	学	惑	誤	び	び	し	た	あ	民	ら	学	と	魯
を	び	中	り	。、	る	を	、	し	り	、	、	は	が	り	主	せ	生	の	迅
受	り	国	頃	、	、	誤	神	、	迄	全	懇	、	、	ま	義	の	の	田	は
け	と	人	、		学	解	経	感	訂	て	切	中	し	動	の	で	中	は	書
た	眺	の	細		生	し	学	激	正	を	で	、	た	き	動	す	を	、	書
の	め	ス	菌		の	、	と	し	し	朱	ト		中	。、	の	脅			
で	る	パ	学					た	て	筆			で	も	脅				

き	い	啓	ど	ん		に		迅	品	求	り	君	は	を		し	る	療	す
っ	て	発	で	で	新	深	「	の	『	め	ま	の	自	藤	周	て	と	よ	。
か	、	す	、	い	し	く	惜	深	藤	に	し	写	分	野	樹	、	思	り	彼
け	『	る	人	た	い	迫	別	い	野	答	た	真	の	先	人	僅	い	先	は
で	幻	小	民	ロ	中	っ	ー	心	先	え	が	が	写	生	は	か	、	に	中
あ	灯	説	の	シ	国	て	、	の	生	る	、	欲	真	に	医	二	そ	、	国
り	事	家	た	ア	を	小	語	経	『	余	そ	し	の	告	学	年	の	民	の
、	件	に	め	文	作	説	ら	緯	が	裕	の	い	裏	げ	の	で	衆	人	々
作	』	な	の	学	ろ	を	な	は	書	が	後	、	に	ま	勉	、	の	々	に
家	は	り	新	な	う	書	か	明	か	無	の	様	『	す	強	の	初	一	番
と	そ	た	し	ど	と	い	れ	か	れた	く	日	子	惜	。	を	小	歩	必	要
な	の	い	国	多	す	た	ま	さ	の	、	々	も	別	驚	や	説	教	な	の
り	こ	と	づ	く	思	の	せ	れ	で	そ	に	教	』	き	め	家	育	の	は
、	と	強	く	の	い	で	ん	ま	し	の	は	え	と	残	仙	に	、	の	は
思	を	く	思	世	、	し	で	せん	が	二	魯	て	書	念	台	な	心	の	の
想	決	思	い	界	密	た	し	で	し	十	迅	い	い	に	を	ろ	の	は	の
家	断	い	始	文	か	。	な	し	こ	年	に	い	て	思	去	う	と	教	は
と	さ	始	め	学	に		な	た	に	後	先	と	渡	う	る	と	育	育	近
な	せ	め	の	な	読		か	た	魯	に	生	語	し	先	こ	決	で	代	医
り	た	て						。		小	の		、	生	と	心	あ		

は	の		偉	ど	た	野		友	な	日	の	れ		あ	を	ど		で	革
な	、	学	大	さ	く	先	魯	好	と	中	生	た	漢	っ	誕	の	生	の	命
い	『	生	な	れ	な	生	迅	を	き	戦	偉	了	字	た	生	読	い	日	に
、	和	た	教	て	る	は	が	願	の	争	大	を	を	と	さ	書	立	々	貢
互	』	ち	育	、	と	、	唯	っ	作	時	な	は	は	、	せ	に	ち	に	献
い	と	を	者	更	先	生	一	た	家	の	中	じ	め	力	た	熱	や	あ	し
に	は	励	の	に	生	涯	日	小	・	国	国	め	と	を	の	中	そ	っ	た
励	た	ま	姿	勇	の	魯	本	説	太	策	の	し	込	込	で	し	の	と	魯
ま	だ	す	を	気	顔	迅	で	な	宰	小	文	て	め	め	す	た	時	と	迅
し	仲	藤	改	も	が	の	尊	の	治	説	化	古	て	「	。	医	代	捉	の
合	良	野	め	加	浮	心	敬	で	が	の	へ	く	「	『	学	背	え	誕	
っ	く	先	て	わ	か	に	し	は	渾	意	の	か	惜	無	校	景	る	生	
て	す	生	思	っ	び	生	た	と	身	図	謝	ら	別	用	時	と	の	は	
勉	る	の	い	た	、	き	人	思	の	を	意	日	「	の	代	共	で	、	
強	こ	「	まし	と	良	続	と	い	勇	超	本	本	に	用	が	に	す	す	
す	と	中	した	書	心	け	言	まし	気	え	に	に	『	が	、	、	。	に	
る	ば	庸	。	い	が	て	わ	した	で	て	伝	魯	が	こ	後	文		医	
こ	か	「		て	よ	、	れ	た	書	、	え	こ	こ	の	の	学		学	
と	り	か		い	び	怠	た	。	い	元	ら	こ	こ	で	魯	書		校	
。	で	ら		て	も	け	藤		た	気		す	に	す	迅	な			

																			さ	出	ま	こ
																			せ	会	し	れ
																			ら	え	た	を
																			れ	た	。	『
																			た	こ	若	和
																			一	と	い	』
																			冊	が	日	と
																			の	嬉	の	い
																			本	し	魯	う
																			で	く	迅	。
																			し	、	が	と
																			た	、	仙	言
																			。	ろ	台	う
																				い	で	言
																				ろ	藤	葉
																				な	野	を
																				事	先	嚙
																				を	生	み
																				考	と	し
																				え		め